

働き方改革！ 2人1組ペアで看護をやってみた

～人材育成で大切な事「人を育てる意識、コミュニケーション力」～

3階東病棟 ○阿部紗弓 古田大二郎 内野沙紀 熊添智春 栗野ひふみ 権藤清美

【目的】

先行文献では近年患者は高齢化し、様々な疾患の合併や認知機能の低下に伴い業務は煩雑化し、経験の少ない看護師1人での対応が困難であると述べられている。当病棟でも看護師の力量によって多くの問題が生じている現状がある。今回2人1組で患者を受け持つペア看護の導入を試みた。導入前後のアンケート調査と導入後の聞き取り調査を行い、結果を踏まえ、人材育成につなげることを目的とした。

【方法】

1. 調査対象：3階病棟看護師25名
2. 調査方法：2019年6月 独自のアンケート用紙を作成 導入前アンケート調査
2019年7月 ペア看護・機能別看護導入 導入後アンケート調査
2019年11月 研究メンバーによる個別の聞き取り調査

【結果】

当部署は40床の外科・泌尿器・血管外科・皮膚科の混合病棟である。アンケート調査の結果は5年目以下（以下A群）と6年目以上（以下B群）に分けて単純集計を行い、ペア看護導入前後で比較検討を行った。導入後A・B両群ともに「時間外業務」「時間内の記録」「業務の煩雑化」に改善が認められた。患者を観察しながらタイムリーに記録を行うことで時間の削減に繋がったと考える。B群においては「患者への対応時間」「ケア不足」に関しても改善が認められ、ペア看護の強みを活かしていると考えられた。個別での聞き取り調査では、新たな看護体制導入のメリットとしてA群は「すぐに相談出来た、不安の解消につながった」等の声があった。B群は「若い子の頑張りを目にする事ができた、指導に役立てられた」「委員会時は補完してもらい助かった」等の意見があった。デメリットとしてA群は「コミュニケーションがうまく出来ない」「人によっては頼みにくい」等の問題が挙げられた。B群は「自分のペースで出来ない・ストレス」等が挙げられた。実施期間はペア看護のための人数確保が難しく、2か月のみとなった。

【考察】

針本らは、パートナーからねぎらいや感謝の言葉を掛けられると自己寛容が高まり、さらにコミュニケーションを良好に保つようになり、それがまたコミュニケーションスキルを高めるという良循環が生じる可能性があるとして述べている。社会においても「働き方改革」が求められており、看護の質を落とさずに業務改善に取り組む必要がある。ペアを組むことで観察力を高め、患者の接し方、コミュニケーションスキルなどを身近に学び、人材育成や看護の質の向上につながるのではないかと考える。お互いが声を掛け合い、補完・協力するという風土作りが大切である。経験のある看護師も経験の少ない看護師とペアになることで新しい知識や若い人特有の感性を享受し、自らの看護や指導を振り返る機会になったと考えられる。看護経験年数の違いから起こる不満や考えをカンファレンス等で話し合う場が必要である。新たな業務体制を導入したことで、働き方改革・人材育成への意識付けの一助となった。